



井戸ばた会議

9月号の★募集テーマから

秋の夜長に おすすめの一冊



お気に入りの一冊。どれも気になるものばかりでした。スーパービジョンや、ケア会議の進め方に関する本もありました。パワーをもらえる本、何度読んでも新しい発見がある本…人生に寄り添ってくれる本は、何ものにも代えがたい宝物ですね！
(編集部)

コミュニケーションの難しさ 考えさせられた1冊

宮城県 野田毅

『母性』(湊かなえ著)

「まさか、そんな風に思っていたの?」「そういう対応をするとは思ってなかった」等々、このような感

情を抱いたことはあると思います。

これは、自分の相手に対する期待(勝手な)の表れなんだということにあらためて気づかされる一冊です。そんな心情を母と娘というそれぞれの立場で書かれており、考えさせられます。自分自身、関係性が近ければ近いほど、例えば親子であ

たり、夫婦であったり、兄弟、姉妹であったり。言わなくても分かってくれるという勝手な期待を抱いているなど反省させられました。仕事に置き換えてみても、同じだなと思います。

上司や同僚、部下が(勝手な)期待通りの仕事をしないとき、怒りや、

投稿用紙のご利用(p.37、もしくはホームページから投稿)で、掲載された方には、**1,000円の図書カード**を差し上げます。

心は旅気分!!



がっかりすることがありますが、自分の期待(思い・願い等)を伝えていたか?と、振り返ることも必要だなと思います。同じ話を聞いても、同じ体験や経験をして、その立場、置かれている環境、その時の心情等々、いろいろな要素により、捉え方は違ってくることがとてもリアルに感じられる一冊です。

シングルファザーの奮闘記 パワーもらった

千葉県 荒木久里子 45歳

一人で子ども2人を育ててきました。上の子は中学生、下の子は小学校高学年になりました。育児で疲れたなというときに読んだのが、『父親が子育てに出会う時』(土堤内昭雄

著)。

著者もシングルファザー。民間のシンクタンクで働きながら、2人の息子を育てあげた経験をまとめたエッセーです。

海外出張もある忙しい仕事の中で、両親や兄弟、地域の力も借りながら、一人前に育てていく過程にとっても共感しました。

「子育ては自分育てだ」という言葉も、心に残りました。

子どもと一緒に習い事を始めたり、登山やマラソンに挑戦したりする中で、自分自身も気づきを得て、父親として成長していく。読みながら、もうちょっと頑張ろうと、パワーをもらいました。子どもたちも手がかからなくなってきたので、将来財産が残せたらいいなと、最近は投資の本も読んでいます。

分かりやすい表現で ケア会議のプロセスを解説

神奈川県 岡本徳子 50代

私のオススメは、『ケア会議の技術 2 事例理解の深め方』(上原久著)です。

主宰する自主勉強会で、メンバーが学びを深められるよう選定した書物でしたが、私自身も楽しく読みました。

ケア会議の基本的な知識から進め方、事例検討での情報の集め方、評価の仕方まで。会議を意義あるものにするための知識と技術が整理され、ぎゅっとまとめられています。

仕事に関連するかたい書物は、秋の夜長のゆっくりした時間では敬遠しがちですが、表現が分かりやすく、事例も身近で、逆に集中できました。

